

第3回宇宙政策委員会議事録

1. 日時：平成24年8月29日 15:00-16:45

2. 場所：内閣府宇宙戦略室5階会議室

3. 出席者

(1) 委員

葛西委員長、松井委員長代理、中須賀委員、松本委員、山川委員、山崎委員

(2) 政府側

古川内閣府特命担当大臣（宇宙政策）、園田内閣府大臣政務官、西本宇宙戦略室長、明野宇宙戦略室審議官 他

4. 議事録

(1) 開会の挨拶

会議の冒頭古川大臣から以下のような挨拶があった。

○古川内閣府特命担当大臣 本日はお集まりいただき、感謝申し上げます。

前回までは、宇宙政策委員会として、宇宙開発利用に関する予算について、関係府省による平成25年度概算要求に当たっての指針となる宇宙開発利用に関する経費の見積りの方針について審議、取りまとめいただいた。

これを踏まえて、8月17日付けで、関係府省に対して「平成25年度宇宙開発利用に関する経費の見積り方針」を通知した。関係府省には、これに基づいて来年度概算要求いただくこととしている。

本日の会合からは、新たな宇宙基本計画策定に盛り込むべき事項に関する審議に入ることとなる。

近年、米国における政策転換や中国の台頭など、世界的にも宇宙開発利用の状況が大きく変化している。また、国内的にも厳しい財政事情の中で、自律性の確保と宇宙利用の拡大、産業基盤の強化等において、メリハリのある検討が必要。

委員の皆様方におかれては、新たな時代にふさわしい新たな宇宙基本計画作りに尽力頂きたい。

(2) 宇宙開発利用の現状及び課題について及び新たな宇宙基本計画策定に盛り込むべき事項の検討に当たっての基本的な考え方について

西本宇宙戦略室長から、資料1「宇宙開発利用の現状及び課題」及び資料2「新たな宇宙基本計画策定に盛り込むべき事項の検討に当たっての基本的な考え方（案）」について説明があった後、委員からは、以下のような意見が

あった。

資料 2 については、スケジュールについては柔軟に対応するべきとした上で、了承された。

(以下、○委員発言、●事務局発言)

(総論)

○①宇宙の利用の拡大と②自律性の確保という 2 つの考え方は基本的な哲学として適当であるし、基本計画に載せるべき事業の優先順位付けを合理的につける上では、この 2 つの考え方を基準とする方向でよい。(松井委員、松本委員、山川委員、山崎委員) 事業の優先順位付けの基準は、国益と国際競争力の 2 つの観点と言いかえることもできる。(山川委員)

○宇宙基本計画は 5 か年の計画だが、新たな宇宙基本計画の議論を行ううえで、国家戦略として長期的なビジョンに基づいた 5 か年計画を作っていくべき。(山崎委員)

○国家戦略としての長期的なビジョンが基本になければならない。また、既存のプロジェクトの項目別に議論するだけでなく、新たな宇宙基本計画の議論にあたっては、現行の計画が作成された時点と前提条件がどう変わっているのかの検証が必要。また、何のために宇宙開発利用を行うのか、何を基準として施策を評価するかなど、戦略の基本的な考え方について、縦軸を目的、横軸を手段としてマトリクスで考えるなど詳細な検討が必要であり、十分な審議時間を確保することが必要。継続的に実施すべき項目は戦略ではなく戦術であって、社会インフラとしてやるべきであり、ここでは長期的な国家戦略を議論すべきである。(松本委員)

○各プログラムについての個別議論を展開する前に、現状ではどんなプログラムに重点投資するかの評価基準についての議論とコンセンサスが必要。その観点では、3000 億円の宇宙産業を 5000 億円に広げ、パイを大きくすることにつながるということを当面は重視する必要があるのではないかと。(中須賀委員)

(宇宙基本計画の位置づけ)

○宇宙政策には環境、エネルギー、外交・安全保障、防災など、さまざまな

目的がある。宇宙基本計画の検討にあたっては、これら多様な分野に関係する国家戦略及び関連する宇宙以外の政策との整合性をとりつつ検討すべき。例えば地球観測衛星等は、無論学術的な意義はあるが、温暖化防止といった宇宙以外の他の国家戦略とどう関係し、実際にどれほど役に立っているのかなどは、チェックしてゆく必要がある。同様に、日本のエネルギー政策のなかで宇宙をどう位置付けるのかなど、幅広い視点を持って議論することが重要。(松本委員)

○宇宙開発利用を政治的な課題や学術的目的と合わせて検討して行く上で、コストパフォーマンスを十分に評価しないと際限がないものになってしまうので幅広い視点での検討が必要。(松本委員)

○新たな宇宙基本計画を議論するうえでの前提条件として国の宇宙予算である約3000億円のなかだけで重点化を行うという議論を行っているが、宇宙予算全体のパイを拡大していく努力が必要。その際、宇宙の利用を拡大することで、これまで宇宙と接点のなかった分野から予算を取り込んでいくことが重要。今はこのパイを広げる努力に注力し、その先で、広げたパイを使った様々な活動を計画すると言った、時間軸を分けた戦略が必要。(山崎委員、中須賀委員)

(宇宙の利用の拡大)

○宇宙基本計画の議論を進める上で、従来の関係者以外にも需要を広げる意味からも幅広い省庁や関係機関からヒアリングを行い、委員にもその内容を紹介してほしい。(山崎委員)

○宇宙開発利用の全ての分野に関わることだが、ユーザーの意見をいかに取り入れていくかが勝負である。(山川委員)

○国際宇宙ステーションのような宇宙の活用の中という実験プラットフォームについても、測位、リモートセンシング、通信・放送と並んで位置付けてもらいたい。(山崎委員)

(産業振興)

○現在の宇宙産業売上3000億円を拡大する努力は必要。5000億円程度の規模でないと宇宙の産業が維持できず、企業が宇宙から撤退し始めているとの危機感を再度認識すべきである。現行の宇宙基本計画でも想定してい

る、この年間5000億円（5年間で2.5兆円という試算が現行の計画に記載）との2000億円の差は、①外需、②行政分野における業務を宇宙利用により効率化することなどで捻出された予算の活用、③国内民需などを取り込むことで埋めるべき。特に、外需は、国内の利用開拓を先に考えてそれを国内から海外へ展開するのではなく、最初からアジアの需要を取りに行くとの発想が重要。（中須賀委員）

○市場ニーズを把握し、マーケットをどうつくるかが問題。宇宙を国家戦略として推進していくのであれば、短期的には利益が出なくても、長期的視点では利益がでるといったことを見据えることが大事。（松本委員）

○ロケット、衛星の部品やそのメーカーの役割についても、部品を安定的に供給するという観点から宇宙開発利用全体のコストや競争力に影響するので検討するべきである。また、どのマーケットを活用するか、前広に検討して行うことが重要。（山川委員）

○これまで各省庁に宇宙の利用を促してもなかなか政策として表れてこなかった。これからは事務局の案を委員会で審議するのではなく、宇宙政策委員会としても方向性を打ち出していくべき。（松井委員）

○広義の安全保障を含め、安全保障の観点からの議論が全く十分ではないので、今後、この点は十分検討が必要。（山川委員）

（人類社会の発展）

○科学技術や宇宙科学の知見が我が国の宇宙戦略全体を支える基盤と考える。宇宙科学は、飛翔体科学に限らず、様々な宇宙活動を下支えする幅広い科学として捉えるべきであり、政府全体の宇宙予算約3000億円の中で、しぼるのではなく、一定規模の予算を確保すべき。（松本委員）

○新たな宇宙基本計画の議論を進めるうえで、宇宙科学と有人宇宙活動を含めた宇宙探査の定義づけを明確に行うべき。（松井委員、松本委員、山川委員）

○これまでの議論においては、主に産業振興の視点から議論が進んでいるが、宇宙は文化や芸術など、発信力がある側面があるということも忘れてはい

けない。こういった幅広い分野に関係しているという意味で野田総理がおっしゃるとおり、宇宙は残されたフロンティアの一つであり、幅広い視点を持って戦略を立てていくことが重要。(松本委員)

(その他)

○新たな宇宙基本計画の議論を進めるうえで、現行の計画に基づいた施策の進捗等についてフォローアップをしっかりと行い、検証することが重要。また、宇宙の利用が進んでこなかった原因をしっかりと洗い出す必要がある。(松本委員、松井委員)

○宇宙基本計画の見直しのタイムスケジュールは大事。また、宇宙予算について、現実的には現在の約3000億円というパイを官需だけで大きく増やすのは容易ではないと考えている。(葛西委員長)

●今後の日程についてはフレキシブルに対応させていただきたい。なお、本日欠席の青木委員からも意見書をいただいているので、今後のご議論に反映させていただく。(西本室長)

以上